

第 5 回中部 MISt 研究会 Hands-on Seminar 報告書

名古屋市立大学病院
手術看護認定看護師 岡田 悠揮

2016年3月26日(土)より若手医師・看護師を対象としたLIF、PPS手技のHands-on Seminarを開催しました。私は院内では主任として教育担当も務めています。また、昨年7月に日本看護協会の定める手術看護分野の認定看護師資格を取得しました。院内では脊椎手術の知識・技術の向上のため、毎年ハンズオンを含めた勉強会を開催してきました。大学病院、認定看護師としての新たな視点と院内での勉強会の経験が活かすことができればと思い、今回、ファカルティとして初めて参加しました。

セミナーでは、まず名古屋市立大学病院 整形外科医師 大塚聖視先生より「XLIFの手技」のデモンストレーションをしました。今回、デモンストレーション時に医師の視点と手技がわかりやすいように、ビデオカメラを使用して、LIVE映像を正面モニターに映しました。「マイクをインカムにしたほうが良かった」、「モニターが複数あったほうが良かった」など改善点はあるものの、新たな取り組みで受講生にもわかりやすく良かったのではないかと思います。

続いて、私が「MIStにおける器械出し看護師の役割」というテーマで5分程度の講義をしました。内容としては、「MIStが低侵襲手術と評価されるためには医師だけではなく、手術看護師を含めたチームがおのおのの役割を發揮し、患者の侵襲制御に努めることが大切であること」、「器械出しの心得」、「器械出しのコツ」を話し、ハンズオンで学んだことを器械出しに活かしてもらえるようにファンリテーションしました。

続いて、はちや整形外科病院手術室看護師 丹羽 雄二さんより「PPSの手技」についてスライドとデモンストレーションによる講義をしました。X線透視画像の見方、PPS手技上の注意点など、わかりやすいスライドで手術介助に活かせる内容でした。また、デモンストレーションはXLIF同様にハンディカムを用いたLIVE映像を映しながら実施しました。

レクチャー終了後、各テーブル(XLIF:NuVasive社、OLIF:Medtronic社、PPS:Depuy社2テーブル、Stryker社)に分かれ、boneモデルを使用したワークショップを実施しました。約60分間実施後、LIFのテーブルとPPSのテーブルをローテーションし、両方の手技が体験できるようにしました。各テーブルにはファカルティ Dr. を配置し手技のデモンストレーションとポイントを直接指導受けながら術者の視点が体験を通してわかる内容であった。

受講生の評価はアンケート結果からも分かるようにとても好評であり、今後も実施していく必要があると考えます。但し、内容や対象、施設に偏りがないように工夫していく必要はあると思います。

今回、受講生から質問がしやすいように質問用紙を受け付け時に予め配布しましたが、質問用紙の提出はありませんでした。今後は予め自施設で困っていることや、MIStの手技において知りたいことなど考えてきてもらえるように工夫し、より活発な意見交換ができるようにしていきたいです。また、今回ハンズオンの間、誰がファカルティか分かりやすいように術衣を着て実施したことは、とても目立っていてよかったと思いました。

今後も参加する機会があれば、手術の手技が中心になりがちであるが、手術看護師の専門性を活かしたセミナーも必要であると考えます。「器械出し看護師としてどう臨むか」、「MIStの術式における体位固定」、「術中・術後のトラブルシューティング」なども織り交ぜて、MIStがMISt(最小侵襲)であるために、看護師として何ができるかを考えていきたいと思えます。

